

できることから始めよう！南アルプスの貴重な高山植物保護

南アルプス食害対策協議会からの報告

— 2008～2010 自然保護助成基金 直接助成事業 —

平成23年6月

目的

南アルプスは、日本列島の中央に位置し、長野県、山梨県、静岡県の3県にまたがる我が国を代表する山岳である。

この、南アルプス周辺区域におけるニホンジカの生息数は増加する一方であり、生息密度の増による食害は山麓の農地から南アルプスの高山帯まで広範囲にわたっている。

高山帯においては貴重な高山植物に対する食害、森林帯では自然植生への食圧による林地崩壊の危険性の増加、中山間地域では農作物への被害による耕作者の生産意欲減退を招き、荒廃農地、遊休農地の誘発原因の一部となっている。

各地域においても自衛のための防護柵、電牧柵の設置や個体数調整の対策を行っているが、動物には県、市町村の境界が無く、安全で餌の豊富な地域へと移動しながら生息数を増している状況であることから、広域的な対策を図る必要がある。

南アルプスの貴重な高山植物、丹精込めて作った農作物、林産物をニホンジカの食害から守っていくためにも関係機関の英知を結集し、相互に連携協力していくため、南アルプス食害対策協議会を設置した。

設立年月日

平成 19 年 9 月 6 日

構成機関

南信森林管理署、信州大学農学部、長野県環境部自然保護課、長野県林務部野生鳥獣対策室、諏訪地方事務所、上伊那地方事務所、下伊那地方事務所、飯田市、伊那市富士見町、大鹿村

事業報告

南アルプス食害対策協議会では、平成 20 年度～平成 22 年度にかけて、次の事業を実施した。また平成 21 年度からは、林野庁より「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等の整備」負担金をいただく中で事業を実施した。

1. 委託事業

- ① 南アルプス北部における食害の実態、ニホンジカの行動範囲把握等についての調査を信州大学農学部調査チームへ委託

動物チーム・・・南アルプスにおける高山植物群落へ出没するシカの個体数指数算出に必要な情報を得るため、仙丈ヶ岳（標高 3,033m）の高山植物群落に出没するシカの出没頻度と出没頭数の調査及び、平成 20 年度から設置している柵の効果検証等。

担当：竹田 謙一准教授

植物チーム・・・防鹿柵内外の植生およびマルバダケブキ刈取り後の植生のモニタリングを行い、柵の設置と刈取りの効果についての調査。

担当：渡辺 修准教授

治山チーム・・・シカの食害が土壌侵食や植生の回復に与える影響の解明及び、標高の違いによる土壌侵食への影響の解明。とりわけ、南アルプスでも高山植生が発達した仙丈ヶ岳の馬の背における、シカ食害に伴う植生破壊が土壌侵食に与える影響についての解明。

担当：北原 曜教授

生物多様性・・・三峰川上流においての、チョウ類群集のトランセクト調査及び、シカによる食害状況の定点調査を通して、食害状況の変化を評価するとともに、チョウ類の食草と吸蜜植物への影響の解明。

担当：中村 寛志教授

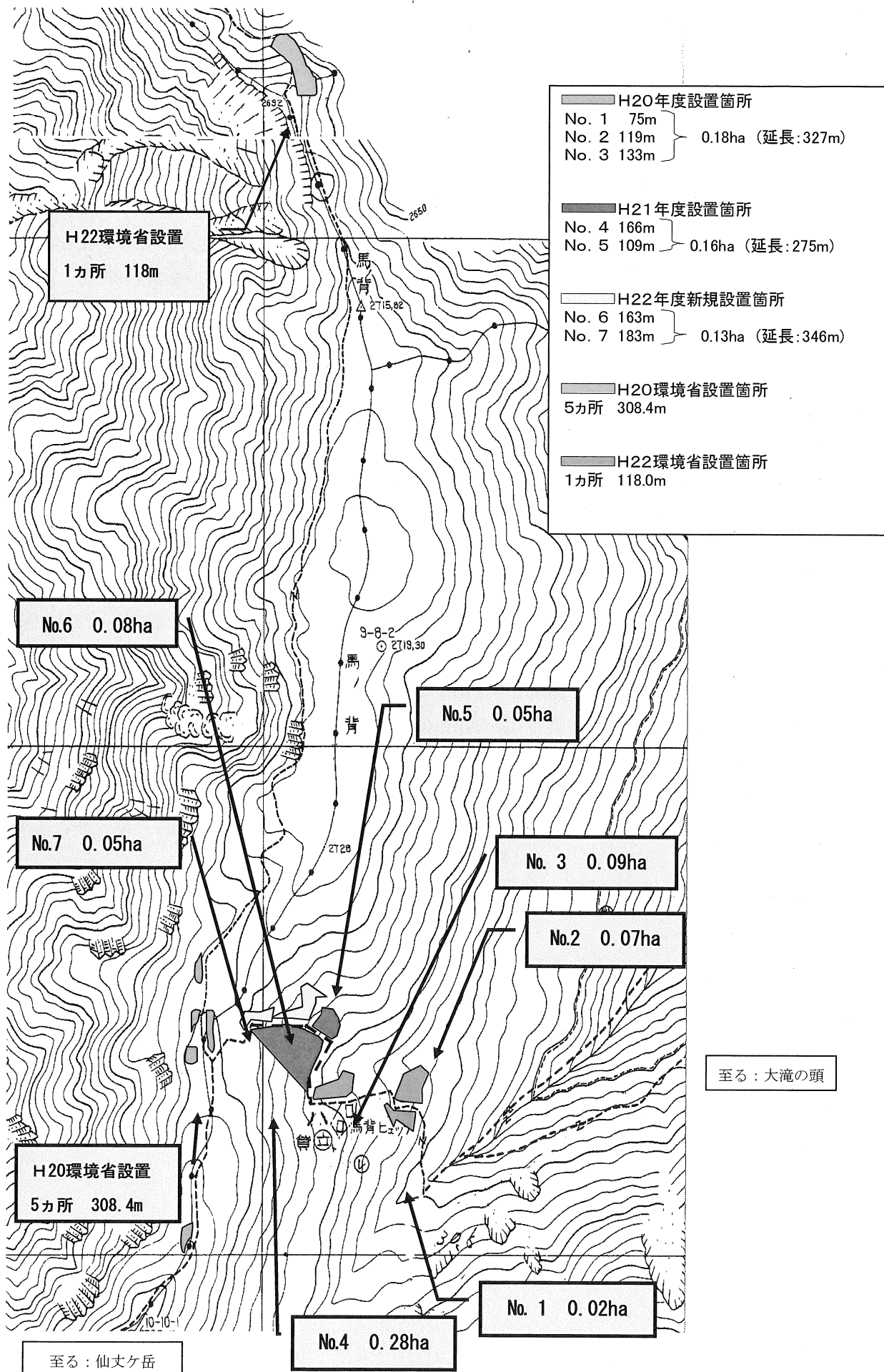
【結果及び考察】

信州大学農学部調査チーム報告書参照（後掲）

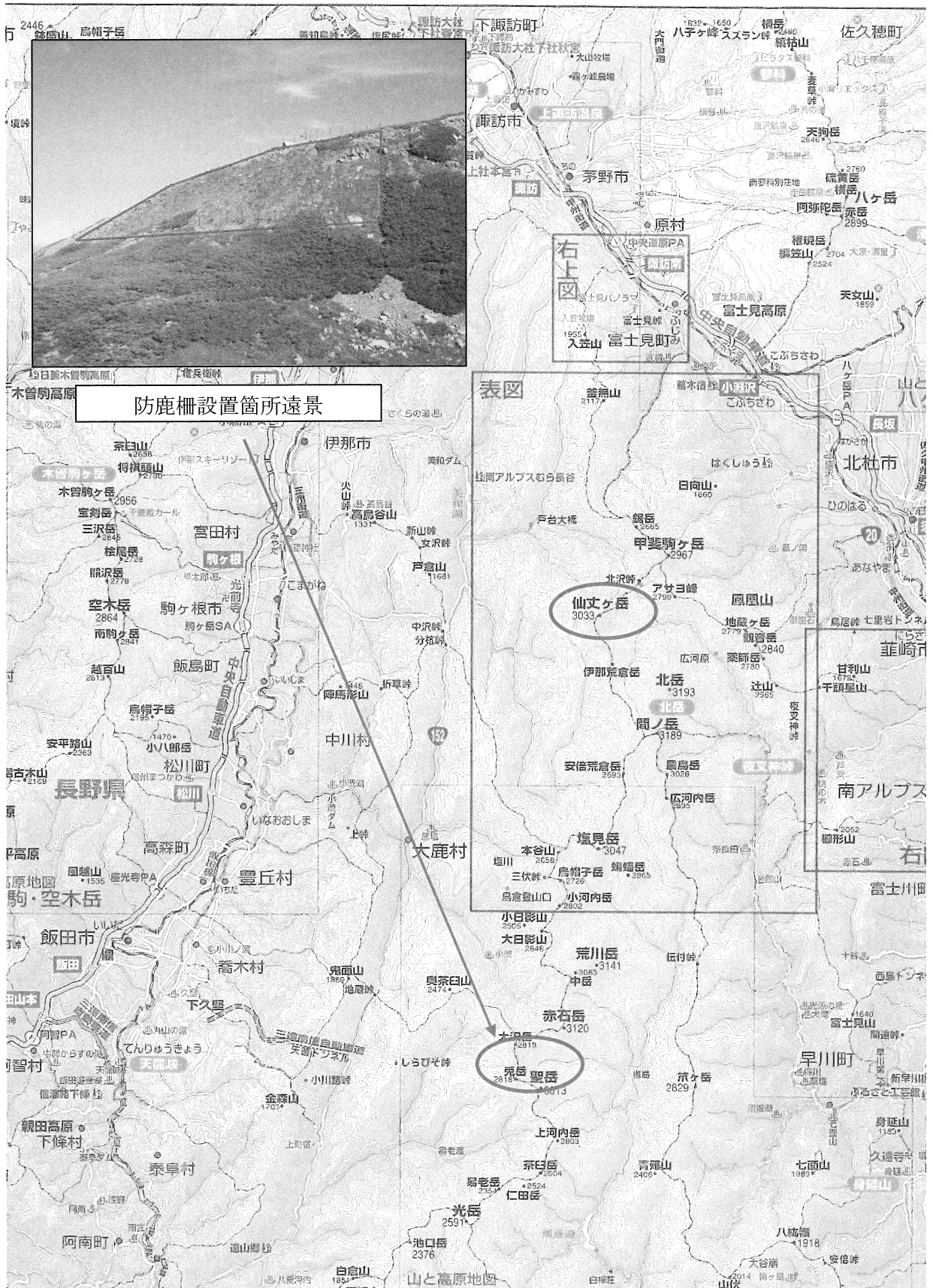
2. 防鹿柵設置事業

- ① 緊急の植生保護対策が必要と判断された南アルプス北部仙丈ヶ岳馬の背周辺において、20年度からの3ヵ年で7箇所L=948m(0.47ha)の防鹿柵の設置を行なった。
 - ・平成20年度 3箇所L=327m(0.18ha)
 - ・平成21年度 2箇所L=275m(0.16ha)
 - ・平成22年度 2箇所L=346m(0.13ha)
- ② 平成22年度には、兎岳に1箇所L=175mの防鹿柵の設置を行なった。
※「民間との協働による山岳環境保全事業（アサヒビール助成事業）」補助金を活用し実施。

■防鹿柵設置箇所位置図（馬の背）



■防鹿柵設置箇所位置図（兎岳）



3. 啓発事業

平成 20 年度	・南アルプス食害対策シンポジウム	7 月
	・活動報告会	3 月
平成 21 年度	・食害対策写真パネル展	9 月
	・林野庁主催中部森林技術交流発表会での活動報告	2 月
	・南アルプス鹿対策シンポジウム及び活動報告会	3 月
平成 22 年度	・食害対策写真パネル展	8 月
	・林野庁主催国有林野事業業務研究発表会での活動報告	11 月
	・ニホンジカ被害対策合同シンポジウム及び活動報告会	3 月

4. 補助事業

食害対策は猟友会の協力を得て取り組んでおり、構成各市町村猟友会への助成も行った。（「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等の整備」林野庁負担金事業）

課題及び今後の活動

防鹿柵の設置にあたっては、環境省とも連携し、設置箇所の調整、設置、修繕作業を協力して行い、予定した事業を進めることができた。また、これらの作業にあたっては、多くのボランティアの協力を得て行う事により、市民への啓発も図ることができた。

平成 22 年には、新たに兎岳に防鹿柵を設置することもでき、エリアを拡大しての取り組みが進んできている。しかし、防鹿柵の設置により守ることができる高山植物は、広大な南アルプスエリアの中では、猫の額にも満たないごく限られたエリアである。

地球温暖化により、降雪量も減りニホンジカが自然淘汰によりその数を減らすことを期待することが難しい中、今後は調査内容に基づき、ニホンジカの個体数調整の方法を確立することが必要不可欠である。そのためには減少する猟友会員の確保など解決しなければならない問題も山積している。他地域（南北八ヶ岳保護管理運営協議会、霧ヶ峰自然環境保全協議会が設立された）へも活動が広がっていく中で、広域での情報共有、対策の連携を進めていくことが重要であり、山梨県との広域捕獲についての調整も始めている。

「できることから始めよう！」をキャッチフレーズに、今後も少しずつであっても確実に対策を実行していきたい。

年度別活動実績

平成 20 年度事業報告

1. 委託事業

- ① 信州大学農学部チームに委託して、ニホンジカによる食害の状況・行動範囲把握等の調査を実施した。

2. 防鹿柵設置事業

- ① 緊急の植生保護対策が必要と判断された南アルプス北部仙丈ヶ岳馬の背周辺において、南信森林管理署との協働により、3箇所防鹿柵を設置した。

3. 啓発事業

- ① 7月には、多くの皆さんに食害の実態等を認識していただくため、食害対策シンポジウムを信州大学農学部において開催した。

4. 取り組み経過

期 日	内 容	場 所
平成 20 年 4 月 18 日	第 1 回幹事会 ・平成 20 年度事業計画・予算（案）等について	伊那市役所
平成 20 年 5 月 22 日	第 2 回幹事会 ・総会に向けた資料の検討等について	伊那市役所
平成 20 年 6 月 24 日	南アルプス食害対策協議会総会 ・平成 19 年度事業報告について ・協議会規約の一部改正について ・平成 20 年度事業計画・予算について ・講演「国有林におけるニホンジカによる被害状況と対策」について 講師 南信森林管理署 佐野智一 森林官	伊那市役所
平成 20 年 7 月 1 日	信州大学農学部へ「南アルプスにおける食害の実態調査と高山植物等の緊急保護」について調査委託を行う。	
平成 20 年 7 月 6 日 ～ 7 日	※ 1 仙丈ヶ岳馬の背周辺現地調査 ・環境省、林野庁、長野県、信大、南ア協議会による現地調査。柵の設置箇所の特定及び測量等。	馬の背周辺
平成 20 年 7 月 26 日	※ 2 南アルプス食害対策シンポジウムの開催 ・「できることからはじめよう！南アルプスの貴重な高山植物保護」と題しシンポジウムを開催。	信州大学農学部

平成 20 年 8 月 7 日 ～9 日	※3 防鹿柵設置作業 ・ボランティアを含む総勢 61 名により、馬の背周辺 3 箇所へ防鹿柵の設置を行う。	馬の背周辺
平成 20 年 9 月 3 日 ～4 日	※4 環境省による防鹿柵設置作業 ・ボランティアを含む総勢 34 名により、馬の背上部 5 箇所へ防鹿柵の設置を行う。	馬の背周辺
平成 20 年 9 月 26 日	第 3 回幹事会 ・現地調査及び幹事会の開催 (荒天により幹事会のみ開催)	長谷総合支所
平成 20 年 10 月 23 日	※5 防鹿柵撤去作業 ・ボランティアを含む総勢 24 名により、馬の背周辺 3 箇所へ設置した内の 2 箇所において防鹿柵の撤去作業を行う。	馬の背周辺
平成 21 年 3 月 17 日	第 4 回幹事会 ・南アルプス食害対策報告会について	信州大学農学部
平成 21 年 3 月 17 日	※6 南アルプス食害対策報告会の開催 ・協議会の活動報告 ・信大農学部調査チームからの報告 ・(財) 自然保護助成基金の取組みについて	信州大学農学部

5. 実施事業詳細

※1 仙丈ヶ岳馬の背周辺現地調査について (7/6～7)

- ・環境省、林野庁、長野県、信大、南ア協議会等による馬の背周辺の現地調査。30 名参加。
- ・防鹿柵設置箇所の決定。(林野庁・南ア協議会で協働により設置する箇所と、環境省で設置する箇所の特定。南信森林管理署による測量。)



7月6日～7日 現地調査



7月6日～7日 現地調査

※2 南アルプス食害対策シンポジウムについて (7/26)

・「南アルプス食害対策シンポジウム」

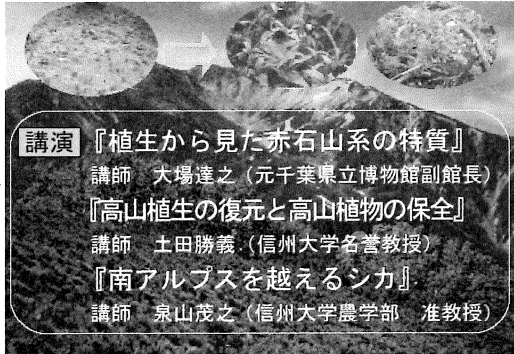
—できることからはじめよう！南アルプスの貴重な高山植物保護—

を信州大学農学部において開催。3名の講師をお迎えし講演会を行い、約200人が聴講。

- ・講演 ○シンポジウム開催趣旨について・・・竹田謙一 信大農学部准教授より
- 植生から見た赤石山系の特質・・・大場達之 元千葉県立博物館副館長
- 高山植生の復元と高山植物の保全・・・土田勝義 信大名誉教授
- 南アルプスを越えるシカ・・・泉山茂之 信大農学部准教授

『南アルプス食害対策シンポジウム』

できることからはじめよう！
南アルプスの貴重な高山植物保護に向けて



講演 『植生から見た赤石山系の特質』
講師 大場達之 (元千葉県立博物館副館長)

『高山植生の復元と高山植物の保全』
講師 土田勝義 (信州大学名誉教授)

『南アルプスを越えるシカ』
講師 泉山茂之 (信州大学農学部 准教授)



日時 7月26日(土) 13:30~16:30
会場 信州大学農学部 総合実験実習棟 30番講義室

主催：南アルプス食害対策協議会
南信自然保護会、信州大学農学部、長野県（環境部自然保護課、林業部自然保護課）、長野県自然環境対策室、長野県地方事務所、上伊那地方事務所、下伊那地方事務所、長野市、伊豆市、宮下町、大町

入場無料

共催：信州大学
後援：環境省 関東地方環境事務所
林野庁 中部森林管理局
協賛：財団法人 自然保護助成基金

お問い合わせ先・・・
南アルプス食害対策協議会事務局
伊那市信州大学農学部 農科講義棟 林務56
電話 0265-76-4111 (内線 2416)
FAX 0265-76-4131
E-mail nrs@nucity.jp

※3 防鹿柵設置作業について

- 1 実施日 平成20年8月7日(木)～9日(土)
- 2 実施主体 環境省、林野庁、南アルプス食害対策協議会
- 3 実施主体とボランティア参加人数

(1) 環境省 木村自然保護官	1名
(2) 南信森林管理署 署長他	9名
(3) 南アルプス食害対策協議会長他	15名
(長野県5名、幹事等10名)	
(4) ボランティア	34名 (市内14名、県内14名、県外6名)
計	61名

4 事業の目的

- (1) ニホンジカによる食害を受けている、馬の背ヒュッテ周辺の登山道脇の高山植物を保護する。現状は、マルバダケブキとバイケイソウの植生になってお

り、以前の、クロユリ・シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ等のお花畑を復活させるために保護する。

- (2) 信州大学農学部において、ニホンジカの移動調査、柵と柵を設置しない場所との比較調査研究。

5 事業概要と施工方法

仙丈ヶ岳馬の背ヒュッテ横とヒュッテ下の3箇所

- ① (馬の背ヒュッテ下) 75m (通年設置型)
- ② (馬の背ヒュッテ下) 119m (通年設置型)
- ③ (馬の背ヒュッテ横) 133m (冬季間取り外し型：秋に取り外し、春先に再設置)

計 L = 327m

柵の規格

- ・支柱高 2m (鋼管樹脂被服支柱)
- ・防護ネット (ステンレス線入り) 網目 15cm

施工方法

- (1) 登山道に沿うように2mピッチに支柱を立て、ネットを張る。
- (2) 馬の背ヒュッテ横は雪崩地帯のため取り外し型。
- (3) 馬の背ヒュッテ下の2箇所は、通年設置型のため補強支柱で固定する。

6 今後の課題

- (1) ニホンジカの行動範囲の調査と生態を明らかにするための定期的に調査を行っていく必要がある。
- (2) 今後も引き続き設置箇所並びに周辺の植生の状況を定期的に検証していく必要がある。
- (3) 信州大学農学部で冬季間の一斉捕獲時に繁殖率、栄養調査、年齢等の調査をする。

作業状況等





※4 環境省による防鹿柵設置作業について

- ・実施箇所 馬の背周辺 5ヶ所
 (通年設置型：FRP製支柱・ネットタイプ 4箇所、計 270m)
 (通年設置型：FRP製支柱・金網タイプ 1箇所、38.4m)
- ・実施日 請負業者による設置作業 (9月1日~6日)
 ボランティア参加による設置作業 (9月3日~4日)
- ・参加者 環境省 4名
 ボランティアネットワーク 3名
 芦安ファンクラブ 6名
 南ア協議会 ボランティア 3名

	森林管理署	3名
	事務局	7名
南アルプス市		1名
ボランティア		1名
請負業者		6名
	計	34名



※5 防鹿柵撤去作業について

- 1 実施日 平成20年10月23日(木)
- 2 実施主体 環境省、林野庁、南アルプス食害対策協議会
- 3 実施主体とボランティア参加人数
 - (1) 環境省 木村自然保護官他 2名
 - (2) 南信森林管理署長他 8名
 - (3) 南アルプス食害対策協議会 6名
 - (4) ボランティア 6名(市内5名、県内1名)

計 24名

4 事業の目的

8月7～9日において設置した防鹿柵の一部撤去、全部撤去、全部設置の3パターンで作業を行い、来春に検証を行う中で、今後の防鹿柵設置の参考とする。

5 事業概要と施工方法

仙丈ヶ岳馬の背ヒュッテ横とヒュッテ下の3箇所

- ① (馬の背ヒュッテ下) 75m (通年設置型) ⇒ ネットをはずし下げて束ねる。
- ② (馬の背ヒュッテ下) 119m (通年設置型) ⇒ 補強を行う。
- ③ (馬の背ヒュッテ横) 133m (冬季間取り外し型：秋に取り外し、春先に再設置) ⇒ 全部撤去を行う。

計 L=327m



※6 南アルプス食害対策報告会について (3/17)

・「南アルプス食害対策報告会」

—できることからはじめよう！南アルプスの貴重な高山植物保護—
を信州大学農学部において開催。約 100 人が聴講。

① 「南アルプス食害対策協議会活動報告」

報告者 協議会事務局長 富山裕一

南信森林管理署流域管理調整官 古野照明氏

② 「信州大学農学部調査チームからの報告」

報告者 信州大学農学部准教授 竹田謙一氏

信州大学農学部准教授 渡辺 修氏

信州大学農学部 吉村 綾氏 (教授 北原 曜氏)

③ 「(財) 自然保護助成基金の取組み」

報告者 (財) 自然保護助成基金 研究員 目代邦康氏

平成21年度事業報告

1. 委託事業

- ① 平成20年度に引き続き信州大学農学部チームに委託して、食害の状況・シカの行動範囲把握、土壌浸食、チョウ類への影響、植生復元等の調査を実施した。
- ② 林野庁(南信森林管理署)と連携し、「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備モデル事業」導入による野生鳥獣生息状況の調査等を同じく信州大学農学部チームに委託して実施した。また、食害対策事業は猟友会の協力を得て取り組んでおり、協議会構成市町村猟友会への助成も行った。

2. 防鹿柵設置事業

- ① 仙丈ヶ岳馬の背周辺において、平成21年度新たに2箇所の防鹿柵の設置を行った。柵の設置にあたっては、前年度設置し冬を越した防鹿柵の修繕を通して、積雪に対しての柵設置方法の検証も行った。

3. 啓発事業

- ① 9月には、多くの皆さんに食害の実態等を認識していただくため、食害対策写真パネル展伊那市役所において開催した。
- ② 2月には、林野庁主催中部森林技術交流発表会において、南信森林管理署の取り組みと共に当協議会の取り組みについて発表した。
- ③ 3月には、南アルプス鹿対策シンポジウムを信州大学農学部において開催し、岐阜大学応用生物科学部助教 安藤正規氏の講演及び当協議会の活動報告を行った。

4. 取り組み経過

期 日	内 容	場 所
平成 21 年 5 月 8 日	第 1 回幹事会 ・平成 21 年度事業計画・予算（案）等について	信州大学 農学部
平成 21 年 5 月 19 日	南アルプス食害対策協議会総会 ・平成 20 年度事業報告について ・役員改選について ・平成 21 年度事業計画・予算について ・講演「南アルプスにおける高山植物保護の取り組み」について 講師 静岡県県民部環境局自然保護室 遠藤 淳氏	信州大学 農学部
平成 21 年 7 月 1 日	信州大学農学部へ「南アルプスにおける食害の実態調査と高山植物等の緊急保護」について調査委託を行う。	
平成 21 年 6 月 19 日 ～20 日	※ 1 仙丈ヶ岳馬の背周辺現地調査 ・環境省、林野庁、長野県、信大、南ア協議会による現地調査。 ・越冬した柵の確認、修繕及び、食害の状況調査。	馬の背周辺
平成 21 年 6 月 29 日 ～30 日	防鹿柵資材運搬	馬の背周辺
平成 21 年 7 月 9 日 ～10 日	※ 2 防鹿柵設置作業 ・ボランティアを含む総勢 46 名により、馬の背周辺 2 箇所へ新たな防鹿柵の設置を行なうとともに、前年度設置した柵の修繕を行う。	馬の背周辺
平成 21 年 8 月 5 日 ～6 日	※ 3 防鹿柵修繕作業 ・自然保護レンジャーを含む総勢 17 名により、防鹿柵の修繕作業等を行なう。	仙丈ヶ岳周辺

平成 21 年 8 月 25 日 ～26 日	※4 環境省設置防鹿柵修繕作業 ・ボランティアを含む総勢 27 名により、環境省設置防鹿柵の、雪による破損箇所の修繕を行なう。	馬の背周辺
平成 21 年 9 月 1 日 ～10 日	※5 食害対策写真パネル展 ・食害の状況や、貴重な高山植物の写真展を開催。	伊那市役所
平成 21 年 10 月 13 日	破損資材等荷下げ	馬の背周辺
平成 21 年 10 月 20 日	※6 防鹿柵撤去作業 ・ボランティアを含む総勢 35 名により、馬の背周辺へ設置した防鹿柵の撤去作業を行う。	馬の背周辺
平成 21 年 12 月 24 日	第 2 回幹事会 ・平成 21 年度の取り組み経過について ・課題及び今後の取り組みについて ・シンポジウムの開催について	信州大学 農学部
平成 21 年 2 月 4 日 ～5 日	※7 中部森林技術交流発表会への参加	長野市
平成 22 年 3 月 25 日	※8 南アルプス鹿対策シンポジウムの開催 ・協議会の活動報告 ・岐阜大学応用生物科学部助教安藤正規氏の講演 ・信大農学部調査チームからの報告 ・(財) 自然保護助成基金の取組みについて	信州大学 農学部

5. 実施事業詳細

※1 仙丈ヶ岳馬の背周辺現地調査

- ・実施日：6月19日（金）～20日（土）
- ・環境省、林野庁、長野県、信大、南ア協議会等による馬の背周辺の現地調査。27名参加。
- ・越冬した防鹿柵の状況確認と、今年度設置予定箇所の確認を行った。
- ・雪の影響によりネットの支柱の多くが折れるなどの影響を受けていた。



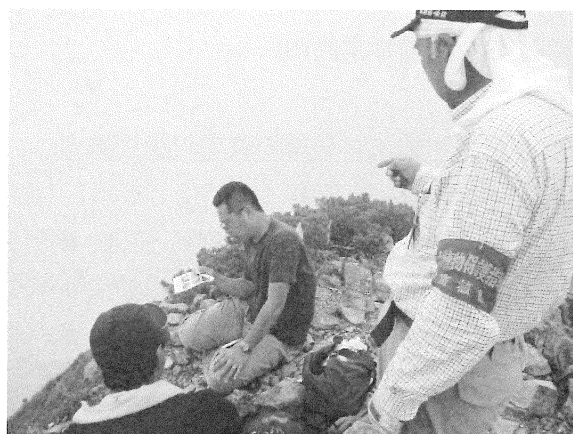
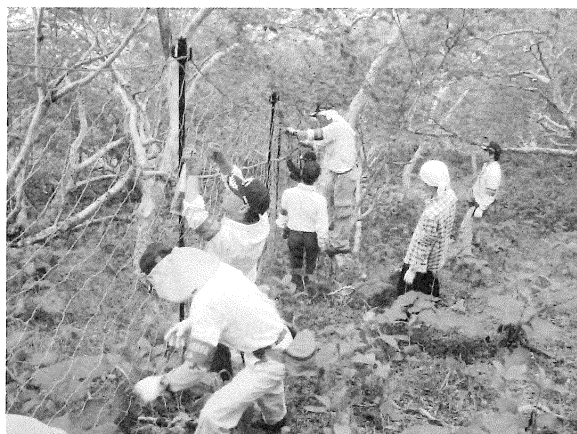
※2 防鹿柵設置作業

- ・実施日：7月9日（木）～10日（金）
- ・昨年度設置防鹿柵（No1～3 L=327m）のメンテナンス。
- ・今年度新規箇所（No4～5 L=275m）の設置。規格は前年と同じ。
- ・参加者 環境省2名、森林管理署10名、ボランティア16名、南ア協議会18名
計46名



※3 防鹿柵修繕作業

- ・実施日：8月5日（水）～6日（木）
- ・7月9日（木）～10日（金）に設置できなかった箇所への設置及び、その他の箇所の点検。
- ・登山者への高山植物保護の呼びかけの実施。
- ・参加者 森林管理署8名、信州大学2名、自然保護レンジャー3名
南ア協議会4名 計17名



※ 防鹿柵設置後の植生の回復状況



撮影箇所 NO. 1 (撮影日: 09.08.25)

○柵の中(右側)の植生の回復が確認できます。



撮影箇所 NO. 1 (撮影日: 09.08.25)

○柵の中(左側)の植生の回復が確認できま

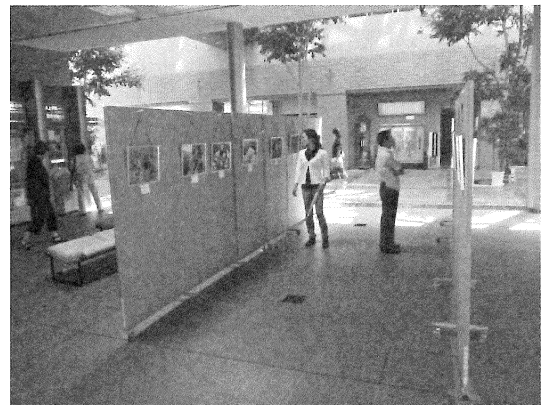
す。

※4 環境省設置防鹿柵修繕作業

- ・実施日: 8月25日(火) ~ 26日(水)
- ・環境省がボランティア、協議会等と連携し設置した馬の背の5箇所の防鹿柵の、雪による破損箇所の修繕を行った。
- ・参加者 環境省 3名、ボランティア 15名、南ア協議会 3名、業者 6名
計 27名

※5 食害対策写真パネル展

- ・実施日: 9月1日(火) ~ 10日(木)
- ・南アルプスにおける食害の状況や、貴重な高山植物の様子を多くの方に知ってもらう写真展を開催した。
- ・会場 伊那市役所1階市民ホールにて



※6 防鹿柵撤去作業

- ・実施日: 10月20日(火)
- ・雪による破損の経験を踏まえ No 1、2 L=194mはネットを下げ、支柱を残す。
No 3~5 L=408mはネットを下げ、支柱も抜く。
あわせて環境省の柵の撤去作業も実施しました。
- ・参加者 環境省 4名、森林管理署 6名、ボランティア 8名、南ア協議会 17名
計 35名



協議会柵撤去後



環境省柵撤去後

※7 中部森林技術交流発表会への参加

- ・平成22年2月4日(木)～5日(金)長野市で開催された、林野庁主催中部森林技術交流発表会へ参加 南信森林管理署と共同し当協議会の活動内容の報告を行い、中部森林管理局長賞(優秀賞)を頂くことが出来た。

※8 南アルプス鹿対策シンポジウム

- ・実施日 平成22年3月25日(木)信州大学農学部 約100人が聴講。

①「南アルプス食害対策協議会活動報告」

報告者 協議会事務局長 富山裕一

②「ニホンジカによる植生衰退と森林の保護・再生」～大台ヶ原における事例の紹介～

講師 岐阜大学応用生物科学部助教安藤正規氏

③信州大学調査チームからの報告

仙丈ヶ岳におけるシカ食害に伴う土壌侵食

報告者 吉村 綾

三峰川上流におけるチョウ類とシカの食害の影響

報告者 中村寛志教授

仙丈ヶ岳高山帯に出没するニホンジカの行動と山麓での管理捕獲技術の開発

報告者 竹田謙一准教授

仙丈ヶ岳のニホンジカ食害エリアにおける植生復元

報告者 渡辺 修准教授

④「自然保護助成基金からの報告・最近の鹿対策の動向と新しい鹿利用の提案」

講師 (財)自然保護助成基金専務理事 岡本寛志氏

～できることから始めよう！ 南アルプスの貴重な高山植物保護に向けて～

南アルプス鹿対策シンポジウム



南アルプス食害対策協議会では、ニホンジカによる食害が深刻な南アルプスにおいて、貴重な高山植物等モシカの食害から守るため、環境省、林野庁、信州大学農学部、長野県、各関係自治体の連携のもと、今年度も各種事業を実施してきました。今回は岐阜大学安藤正輝先生にご講演をいただき、併せて本協議会の活動報告を行います。拡大する鹿問題の参考となる良い機会ですので是非ご聴講いただきますようご案内申し上げます。

日時 3月25日 木 13:30～16:30 (申し込み 参加費無料)

会場 信州大学農学部 総合実験実習棟 30番講義室




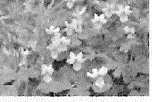
ニホンジカによる植生衰退と森林の保護・再生』
～大台ヶ原における事例の紹介～

講師 安藤正輝氏 岐阜大学応用生物科学部助教

信州大学調査チームからの報告』
講師 竹田謙一氏 (信州大学農学部准教授)

自然保護助成基金の取り組み』
講師 目代邦康氏 (財)自然保護助成基金研究員)

南アルプス食害対策協議会活動報告』
報告者 協議会事務局

主催 南アルプス食害対策協議会

南信森林管理署、信州大学農学部、長野県(環境部自然保護課、林野部野生鳥獣対策室、国土地方事務所、上伊那地方事務所、下伊那地方事務所)、飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村

共催 信州大学

後援 環境省 関東地方環境事務所、林野庁 中部森林管理局

協賛 財団法人 自然保護助成基金

お問い合わせ/南アルプス食害対策協議会事務局(伊那市役所産産振興部 農林振興課 林野係)
TEL 0265-78-4111 (内線 2416) FAX 0265-78-4131 E/j-k_nra@insolity.jp

平成22年度事業報告

1. 委託事業

- ① 南アルプス北部における食害の実態、ニホンジカの行動範囲把握等についての調査。
平成20年度から設置している柵の効果検証。(信大委託 継続事業)
 - ・本調査は数年次に亘る継続調査、資料収集が必要であり、引き続き、信州大学農学部チームに委託して被害の実態・ニホンジカの行動範囲把握、設置した柵の効果検証等の調査を実施した。
- ② 林野庁(南信森林管理署)と連携し、「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等の整備」導入による野生鳥獣生息状況の調査等。(信大委託事業ほか)
 - ・引き続き信州大学農学部チームに委託して、南アルプス仙丈ヶ岳周辺での調査を行ってきたが、一昨年度から5ヵ年程度の予定で林野庁の負担金を受けて、南アルプスの広範囲(飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村、南信森林管理署管内等)において、ニホンジカの生息状況や被害状況等の把握、また対策についての調査、研究を林野庁、信州大学と連携し実施した。また、食害対策事業は猟友会の協力を得て取り組んでおり、猟友会への助成を行った。

2. 防鹿柵設置事業

- ① 仙丈ヶ岳馬の背周辺において、22年度新たに2箇所L=346mの防鹿柵の設置を行った。
- ② 新たに飯田市兎岳に1箇所L=175mの防鹿柵の設置を行った。

3. 啓発事業

- ① 8月には、多くの皆さんに食害の実態等を認識していただくため、食害対策写真パネル展を飯田市りんご庁舎2階オープンスペースにおいて開催した。
- ② 11月には、林野庁主催国有林野事業業務研究発表会において、南信森林管理署の取組みと共に、当協議会の取組みについて発表した。
- ③ 2月には、ニホンジカ被害対策合同シンポジウムを開催し、京都大学大学院農学研究科教授藤崎憲治氏の講演及び連携する南アルプス食害対策協議会、南北八ヶ岳保護管理運営協議会、霧ヶ峰自然環境保全協議会からの活動報告を行った。

4. 取り組み経過

期 日	内 容	場 所
平成 22 年 5 月 12 日	第 1 回幹事会 ・平成 22 年度事業計画・予算等について	信州大学 農学部
平成 22 年 6 月 2 日	南アルプス食害対策協議会総会 ・平成 21 年度事業報告について ・平成 22 年度事業計画・予算について ・講演「南アルプスの高山植物保護について」 講師 中部森林管理局計画部指導普及課 生態系管理指導官元島清人氏	伊那市役所 多目的ホール
平成 22 年 6 月 3 日	信州大学農学部へ「南アルプスにおける食害の実態調査と高山植物等の緊急保護」について調査委託を行う。	
平成 22 年 6 月 3 日	※ 1 大平山荘周辺グリーンロープ設置	大平山荘周辺
平成 22 年 6 月 15 日 ～16 日	※ 2 仙丈ヶ岳馬の背周辺現地調査 ・環境省、林野庁、長野県、信大、南ア協議会による現地調査。 ・越冬した柵の確認、修繕及び、食害の状況調査。	馬の背周辺
平成 22 年 6 月 28 日	防鹿柵資材運搬	馬の背周辺
平成 22 年 7 月 12 日 ～13 日	※ 3 防鹿柵設置作業 ・ボランティアを含む総勢 47 名により、馬の背周辺 2 箇所へ新たな防鹿柵の設置を行なうとともに、前年度設置した柵の修繕を行う。	馬の背周辺
平成 22 年 8 月 4 日 ～5 日	※ 4 高山植物保護パトロール ・自然保護レンジャーを含む総勢 10 名により、防	仙丈ヶ岳周辺

	鹿柵の修繕作業等を行なう。	
平成 22 年 8 月 26 日 ～28 日	※5 防鹿柵設置作業（兎岳） ・ボランティアを含む総勢 14 名により、飯田市兎岳に新たに防鹿柵 1 箇所を設置を行った。	兎岳兎平周辺
平成 22 年 8 月 12 日 ～30 日	※6 食害対策写真パネル展 ・食害の状況や、貴重な高山植物の写真展を開催。	飯田市りんご 庁舎 2 階オー プンスペース
平成 22 年 10 月 17 日	破損資材等荷下げ	馬の背周辺
平成 22 年 10 月 22 日 ～23 日	※7 防鹿柵撤去作業 ・ボランティアを含む総勢 30 名により、馬の背周辺へ設置した防鹿柵の撤去作業を行った。	馬の背周辺
平成 22 年 11 月 16 日 ～18 日	※8 国有林野事業業務研究発表会への参加	農林水産省
平成 23 年 2 月 19 日	※9 南アルプス鹿対策シンポジウムの開催 ・京都大学大学院農学研究科教授藤崎憲治氏の講演 ・連携する南アルプス食害対策協議会、南北八ヶ岳保護管理運営協議会、霧ヶ峰自然環境保全協議会からの活動報告 ・信大農学部調査チームからの報告	伊那市 いなっせ

5. 実施事業詳細

※1 大平山荘周辺グリーンロープ設置

- ・実施日：6 月 3 日（木）
- ・グリーンロープを設置することにより、シカの行動が抑制されるか検証のため大平山荘周辺の登山道沿いに延長約 380m にわたり、グリーンロープを 2 段設置した。地上高約 90 c m。



※2 仙丈ヶ岳周辺現地調査

- ・実施日：6月15日（火）～16日（水）
- ・環境省、林野庁、長野県、信大、南ア協議会等による馬の背周辺の現地調査。18名参加。
- ・防鹿柵の状況確認と、今年度設置予定箇所の確認及び一部の柵の設置を行った。



No 1 (右) No 2 (左)



No 4 (左) No 5 (右)



環境省No 5の様子



環境省新規設置予定箇所の現地調査

※3 防鹿柵設置作業（馬の背）

- ・実施日：7月12日（月）～13日（火）
- ・昨年度までに設置した防鹿柵（No 1～5 L=602m）のメンテナンス。
- ・今年度新規箇所（No 6～7 L=346m）の設置。
- ・参加者 環境省6名、森林管理署7名、ボランティア17名、南ア協議会17名
計47名





↑環境省鈴木自然環境局長が設置作業を視察されました。



今年度新規設置箇所No.6 ↑



環境省今年度新規設置箇所（馬の背三角点付近）



環境省既設箇所の再設置 ↑

※4 高山植物保護パトロール

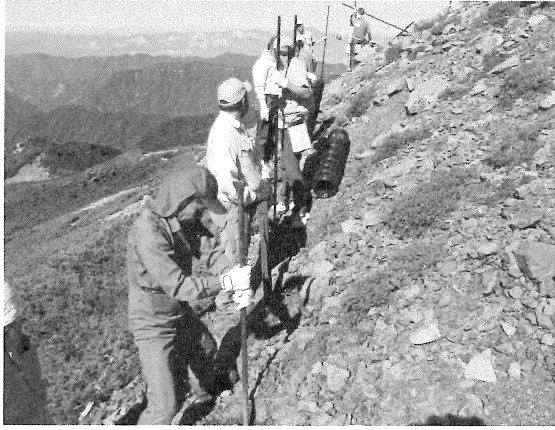
- ・実施日：8月 4日（水）～ 5日（木）
- ・7月 12日（月）～ 13日（火）に設置した箇所の点検。
- ・登山者への高山植物保護の呼びかけを行いました。
- ・参加者 森林管理署 5名、環境課 1名、自然保護レンジャー2名、南ア協議会 2名
計 10名



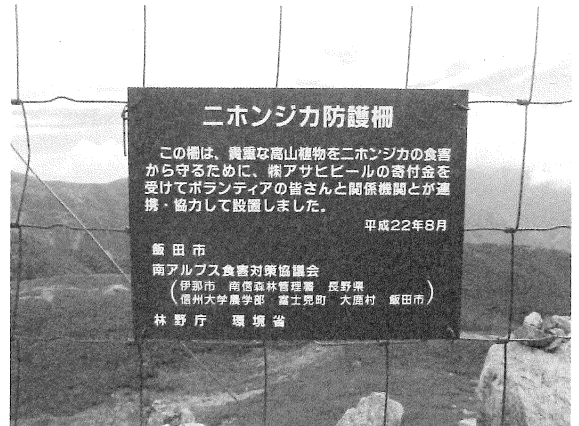
← 打ち合わせの様子

※5 防鹿柵設置作業（兎岳）

- ・実施日：8月 26日（木）～ 28日（土）
- ・兎岳兎平に1箇所 L=約 175mの設置。日亜フェンス 2段張り
- ・参加者 森林管理署 2名、ボランティア 7名、南ア協議会 5名 計 14名

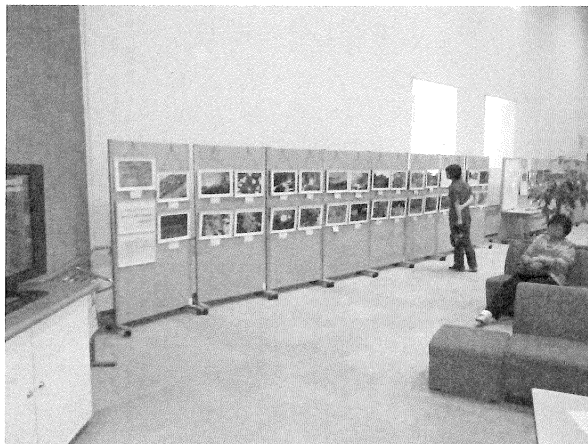


遠山山の会の皆さんの協力をいただき設置作業を行う。また現地は非常に急峻なため落石に注意しながらの作業となった。



※6 食害対策写真パネル展

- ・実施日：8月12日（木）～30日（月）
- ・南アルプスにおける食害の状況や、貴重な高山植物の様子を多くの方に知ってもらうため写真展を開催。
- ・会場 飯田市りんご庁舎2階オープンスペースにて



※7 防鹿柵撤去作業

- ・実施日：10月22日（金）～23日（土）
- ・雪による破損の経験を踏まえ 全ての箇所においてネットを下げ、支柱も抜く。
（No1～7 L=948m） あわせて環境省の柵の撤去作業も実施した。

- ・参加者 環境省 6名、森林管理署 6名、ボランティア 3名、南ア協議会 15名 計 30名

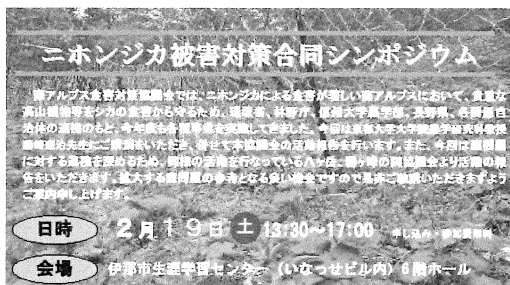


※8 国有林野事業業務研究発表会への参加

- ・平成 22 年 11 月 16 日 (火) ~18 日 (木) 東京都千代田区霞ヶ関農林水産省で開催された、国有林野事業業務研究発表会において南信森林管理署と共同し当協議会の活動内容の報告を行った。

※9 ニホンジカ被害対策合同シンポジウムの開催

- ・平成 23 年 2 月 19 日 (土) 伊那市生涯学習センターにおいて「ニホンジカ被害対策合同シンポジウム」を開催。 約 130 人参加。
- ・講演会「シカの増加が昆虫の多様性に及ぼす影響」
講師 京都大学農学部大学院農学研究科教授 藤崎憲治氏
- ・南アルプス食害対策協議会活動報告及び信州大学調査チームからの報告
- ・南北八ヶ岳保護管理運営協議会活動報告
- ・霧ヶ峰自然環境保全協議会活動報告



●基調講演
『シカの増加が昆虫の多様性に及ぼす影響』
講 師 藤崎憲治氏 (京都大学大学院農学研究科教授)

●報告会

『南アルプス食害対策協議会からの報告』
報告者 信州大学調査チーム・協議会事務局

『南北八ヶ岳保護管理運営協議会からの報告』
報告者 南北八ヶ岳保護管理運営協議会事務局

『霧ヶ峰自然環境保全協議会からの報告』
報告者 霧ヶ峰自然環境保全協議会事務局

主催：南アルプス食害対策協議会
南信森林管理署、信州大学農学部、長野県 環境部自然保護課、林野庁自然環境保全室、信州地方事務所、上伊那地方事務所、伊那地方事務所、飯田市、伊那市、箕輪町、大鹿村

共催：信州大学農学部、南北八ヶ岳保護管理運営協議会、霧ヶ峰自然環境保全協議会
 後援：環境省関東地方環境事務所、林野庁中部森林管理局
 協賛：財団法人 自然保護助成基金

お問い合わせ/南アルプス食害対策協議会事務局(伊那市役所生涯学習部 環境林務課 林務係)
 TEL 0205-70-4111 (内線 2410) FAX 0205-70-4131 E-J ktr@necity.jp